

住友財団

公益財団法人 住友財団との連携

愛媛県の別子銅山は、元禄4年(1691年)に住友家第4代住友友芳が幕府から稼行権を取得して開坑し、現在の住友の諸事業の礎となりました。その開坑300年を記念し1991年に設立された住友財団には、当グループもこれまで基金への拠出、理専会社として運営への参画、スタッフの派遣等を通じさまざまな連携を行ってきました。

住友財団の助成事業

住友財団は、多目的の助成財団として、基礎科学・環境・芸術・文化・国際交流等の各分野で、研究や事業に対して助成を行っています。1991年度から2020年度まで累積の助成件数は7,069件、助成金額は11,393,073千円に上ります。

基礎科学研究助成

科学の進歩は社会の発展に大きな貢献を果たしてきました。科学は人類社会の未来を拓くことにつながるものです。この助成は、重要でありながら研究資金が不十分とされている基礎科学研究、とりわけ新しい発想が期待される若手研究者による萌芽的な研究に対する支援を行うものです。
(1991年度から2020年度まで累積)2,503件 4,089,550千円

環境研究助成

現在、人類が直面している大きな問題の一つに環境問題があります。地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、生物種の減少、食料と人口、砂漠化、公害等さまざまな問題があり、その原因の探究と解決策の模索が続けられています。この助成は、環境問題の解決のためには、多面的アプローチによる分析とさまざまな対応策の構築が必要と考え、そのためのいろいろな観点(人文科学・社会科学・自然科学)からの研究に対する支援を行うものです。
(1991年度から2020年度まで累積)1,520件 2,985,600千円

文化財維持・修復事業助成

「心の豊かさ」を考えると、文化財は心豊かな生活の源となるとともに新たな文化の創造の基礎となるものです。また相互理解の基盤として自国および他国の文化に対する認識を深め、相互の文化交流の歴史を知るには、文化財に接することがきわめて有効な方法となります。これらの点から、文化財を保存して、次の世代に継承していくことは、今の世代の責務と考えます。しかしながら、現在我が国において文化財の維持・修復に充てられる費用は、必ずしも十分

とはいえない状況にあります。この助成は、文化財保護の一助として、日本国内にある文化財(美術工芸品<絵画・彫刻・工芸品・書跡・典籍・古文書・考古資料・歴史資料>)の維持・修復事業を対象に、助成を行うものです。

(1991年度から2020年度まで累積)864件 1,737,260千円

海外の文化財維持・修復事業助成

文化は国の拠り所であり、心の豊かさを養う源です。文化財は、人類とその歴史が織りなす財産であり、それぞれの国の国民の希望であり誇りです。世界の人々がお互いの文化財に接することで相互理解を深め、信頼関係の構築につながります。文化財を守り、それを次の世代に継承することは、今を生きる私たちの責務です。しかし、諸外国においても、文化財の維持・修復には必ずしも十分に手が尽くされているという状況にはありません。この助成は、諸外国における文化財(美術工芸品および遺跡)の維持・修復事業と維持・修復に直接つながる事前調査を対象に助成を行い、人類共通の財産である文化財を後世に伝える一助にしようとするものです。

(1991年度から2020年度まで累積)354件 830,684千円



トルコ共和国カマン・カレホック遺跡発掘現場

アジア諸国における日本関連研究助成

主として東アジア・東南アジア諸国を対象とし、各国の研究者による日本に関連する研究(日本研究、対象に日本を含む比較研究・国際関係研究・交流史研究等)を助成することにより、これら各々の国において日本理解を深めていただく素地を形成し、ひいてはアジア諸国と日本の間の相互理解増進の一助にしようとするものです。

(1991年度から2020年度まで累積)1,676件 1,278,328千円



伊能中図(東京大学所蔵)